

社会資本総合整備計画 定量的指標の達成状況について

(1)計画の名称

泉南市における循環のみちの実現

(2)計画の期間

平成22年度～平成26年度

(3)計画の成果目標(定量的指標)

下水道処理人口普及率を50.9%(H22当初)から52.7%(H26末)に増加させる。
ポンプ場における長寿命化計画策定率を0%(H22)から100%(H26末)に増加させる。

(4)定量的指標の定義及び算定式

下水道処理人口普及率

下水道を利用できる人口(人)/総人口(人)

ポンプ場における長寿命化計画策定率

長寿命化計画策定済みの処理場数(箇所)/長寿命化計画を策定すべき処理場数(箇所)

(5)事業費の執行状況

(単位 : 円)

	事業費 計画値	事業費 実績値	計画期間					執行率 (実績値/計画値)
			①	②	③	④	⑤	
全体事業費	580,000,000	560,718,346	H22	H23	H24	H25	H26	96.7%
補助対象事業費 ①		560,718,346	90,547,750	87,164,685	121,228,848	117,772,487	144,004,576	
交付金額(1/2) ②		254,000,000	45,000,000	42,000,000	55,000,000	56,000,000	56,000,000	
市負担額 ①-②		306,718,346	45,547,750	45,164,685	66,228,848	61,772,487	88,004,576	

(6)施設等の整備に係る進捗状況

施設等整備状況	実績内容 5ヵ年 合計	計画期間					備考
		H22	H23	H24	H25	H26	
污水管渠整備延長(m)	L=5,560.0	1,157.57	1,219.47	1,291.08	843.75	1,047.81	全体延長
	L= 4,970.4	1,004.87	1,048.51	1,217.78	800.70	898.58	補助対象延長
污水整備面積(ha)	A= 41.2	7.86	7.20	5.45	13.74	6.92	市単独事業等分含む
中部ポンプ場長寿命化計画(箇所)	N= 1					1	

(7)定量的指標の達成状況

下水道処理人口普及率	目標値	(参考) H21	計画期間					達成率 (実績値/目標値)
			H22	H23	H24	H25	H26	
処理人口(人) ①	普及率 52.7%	33,158人	33,106人	33,162人	33,800人	33,986人	34,469人	102.5%
行政人口(人) ②		65,112人	64,795人	64,436人	64,587人	64,278人	63,794人	
普及率(%) ①/②		50.9%	51.1%	51.5%	52.3%	52.9%	54.0%	
長寿命化計画策定率	策定率							100.0%
中部ポンプ場長寿命化に係る 計画策定	100.0%		0.0%				100.0%	

注意 : 本表における普及率は、各年度末日(毎年度3月31日付)現在での数値である為、【資料1-2】の値とは異なります。

《総括評価》

- 平成22年度～平成26年度の5ヵ年における事業費を、580百万円と計画しておりました。
実績額としましては、560.7百万円となり、580百万円に対し、96.7%の執行額にて完了することができました。
- 5ヵ年にて整備された污水管渠の延長は、全体でL≒5.6km(補助対象L≒5.0km)となりました。
また、污水整備面積は、市単独事業や民間開発行為により整備されたものも含め、A≒41.2ha拡大することができました。
稼働から20年近くを経過した中部ポンプ場の機能維持を図るべく、長寿命化計画の策定を行いました。
- 下水道普及率につきまして、今計画終了時に52.7%を達成することを目標としておりました。
計画の中間目標値(H24年度末)51.8% → 52.3%、最終目標(H26年度末)52.7% → 54.0% とそれぞれ目標値を達成することができました。
中部ポンプ場における長寿命化計画の策定を完了させ、策定率100%を達成することができました。

【污水管渠整備】

定量的指標に関する事業効果の推移(その1)

●泉南市における下水道普及率及び水洗化率の経過

年 度	公示日	行政人口(人) (外国人含)	住民基本台帳 人口(人)	処理区域内 人口(人)	下水道 普及率	水洗化率	普及面積
H7年度	H8.7.1	62,382	61,800	7,115	11.4%	42.6%	153.41ha
H8年度	H9.7.1	62,937	62,344	8,172	13.0%	53.5%	175.39ha
H9年度	H10.7.1	63,854	63,241	17,918	28.1%	37.4%	238.75ha
H10年度	H11.7.1	64,428	63,829	19,123	29.7%	82.9%	262.65ha
H11年度	H12.7.1	64,896	64,319	20,959	32.3%	84.4%	299.56ha
H12年度	H13.7.1	64,930	64,360	21,853	33.7%	85.8%	320.44ha
H13年度	H14.7.1	65,169	64,577	22,198	34.1%	90.3%	333.06ha
H14年度	H15.7.1	65,416	64,844	26,709	40.8%	78.5%	387.06ha
H15年度	H16.7.1	65,573	65,036	31,447	48.0%	91.0%	437.87ha
H16年度	H17.7.1	65,820	65,272	32,772	49.8%	90.7%	545.03ha
H17年度	H18.7.1	65,970	65,423	33,394	50.6%	91.5%	553.72ha
H18年度	H19.7.1	66,017	65,443	33,477	50.7%	90.4%	556.77ha
H19年度	H20.7.1	65,955	65,370	33,441	50.7%	92.7%	566.43ha
H20年度	H21.7.1	65,858	65,278	33,622	51.1%	93.7%	579.78ha
H21年度	H22.7.1	65,686	65,112	33,976	51.7%	93.9%	587.64ha
H22年度	H23.7.1	65,339	64,795	33,797	51.7%	93.9%	594.84ha
H23年度	H24.7.1	64,984	64,436	33,773	52.0%	95.4%	600.29ha
H24年度	H25.7.1	64,587	64,587	34,587	53.6%	96.2%	614.03ha
H25年度	H26.7.1	64,278	64,278	34,752	54.1%	96.3%	620.95ha
H26年度	H27.7.1	63,794	63,794	34,914	54.7%	95.3%	631.76ha

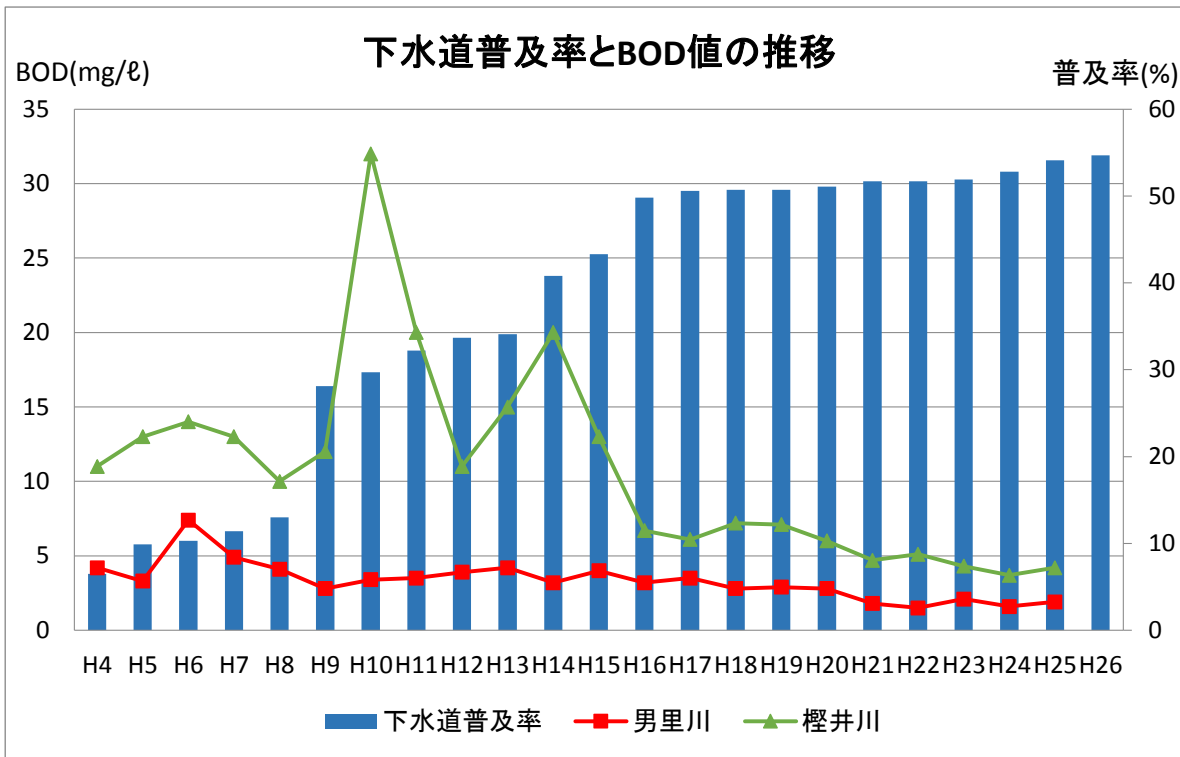
計画期間

注意：本表における普及率は、公示日(毎年度7月1日付)現在での数値である為、【資料1-1】の値とは異なります。

【污水管渠整備】

定量的指標に関連する事業効果の推移(その2)

●下水道普及率とBODとの関係



・主要河川におけるBODの推移

地 点		BOD(mg/ℓ)										
		H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
檜井川	檜井川橋	13.0	6.7	6.1	7.2	7.1	6.0	4.7	5.1	4.3	3.7	4.2
男里川	男里川橋	4.0	3.2	3.5	2.8	2.9	2.8	1.8	1.5	2.1	1.6	1.9

《評価》

先にも記述しましたが、今5ヵ年計画(H22～H26)にて目標としていました下水道普及率は、52.7%が54.0%となり、目標値を達成することができました。

今計画以前からも、污水整備を促進し、普及率の向上に努めると共に、90%を超える高い水洗化率を維持しております。

主要河川におけるBODも下水道普及率の向上に伴い減少傾向となり、公共下水道の整備・普及が「公共水域の水質保全」に大きく寄与しているものと考えられます。

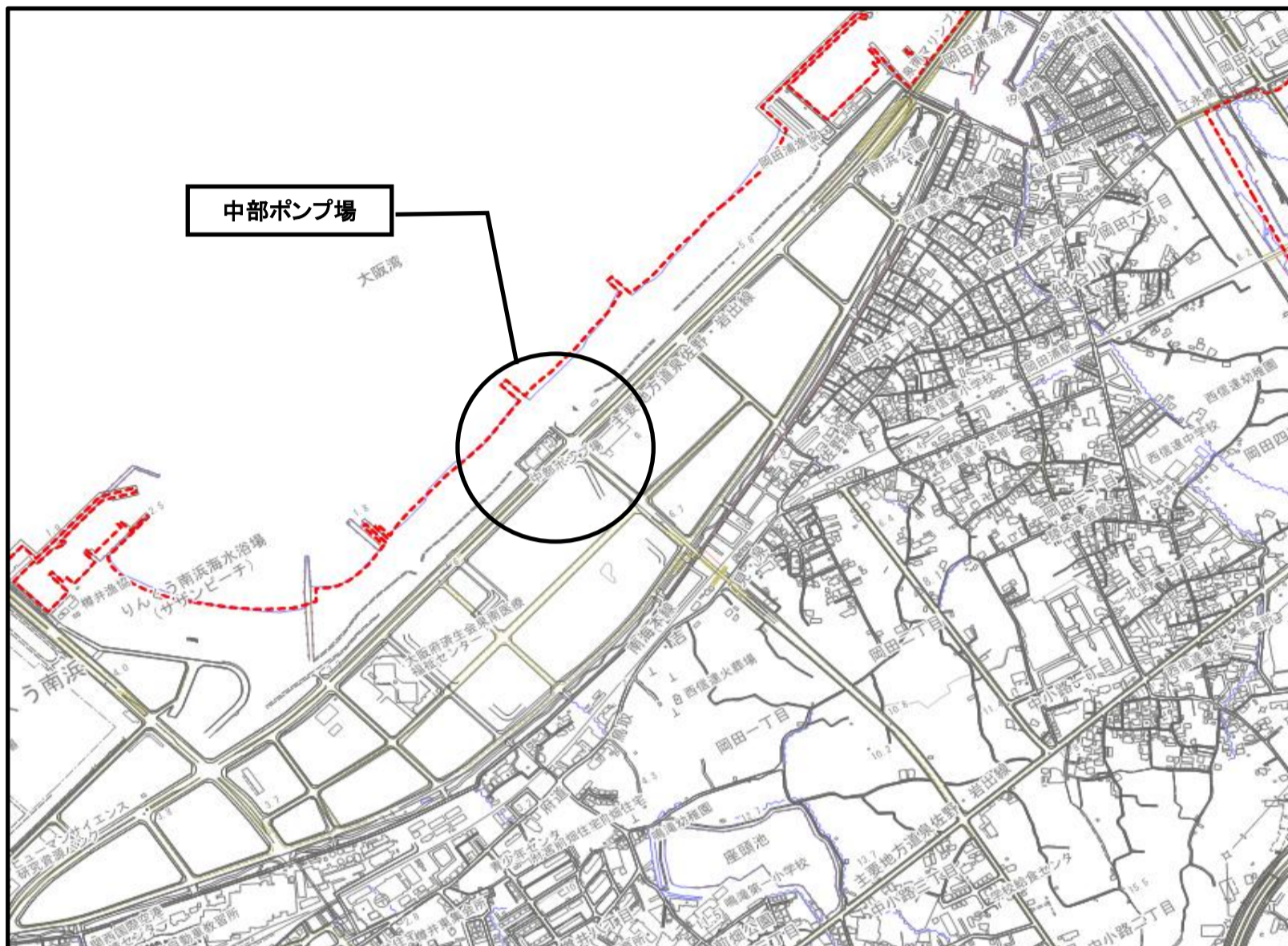
BOD

生物化学的酸素要求量(Biochemical Oxygen Demand)と言い、生物化学的酸素消費量とも呼ばれる最も一般的な水質指標のひとつである。

水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とされる酸素の量で表したもので、特定の物質を示すものではなく、一般にBODの値が大きいほど、その水質は悪いと言える。

【中部ポンプ場長寿命化計画策定】

定量的指標の達成状況について



・長寿命化計画策定の目的

中部ポンプ場は(雨水)は、平成7年2月から供用を開始し、平成26年当時では19年が経過していました。雨水ポンプは標準耐用年数の20年に近づき、また原動機外主要設備の標準耐用年数の15年をすでに経過している状況でもありました。

経年劣化の進行により、近年維持管理費の増加が課題となっており、今後の持続可能な事業実施を図るため、より計画的・効率的な管理が求められております。

中部ポンプ場の健全度に関する点検・調査を行い、その結果に基づき「長寿命化計画」を策定し、計画的な改築を行うことにより、事故の未然防止及びライフサイクルコストの最小化を図ることを目的としています。

《評価》

平成26年度に「中部ポンプ場長寿命化計画策定等業務委託」を発注し、施設内の各設備における調査を行いました。

点検調査の結果、機械設備につきましては、定期的な部品交換により健全な状態でありました。電気設備におきましては、改築が必要な設備もあり、計画的にそれを進めて行く必要が判明しました。

これらの結果を踏まえ、「中部ポンプ場長寿命化計画」を策定しました。今後は、必要設備の改築に向けた実施設計業務を行い、事業を進めてまいります。